

# 『ハムレット』の台詞から読み取る 未来のエネルギー選択

千葉大学大学院工学研究科都市環境システムコース准教授

一般社団法人 洗楓座 代表理事

佐藤 建吉

向かう課題において、進取の気概を獲得するには勇気がいる。そのような場合、先例や歴史的経緯を知ることで、行動の選択に有効な判断や知恵を預けてくれる。

『To be, or not to be: that is the question』の台詞を想像させる「新エネルギー」は「シエイクスピアの『ハムレット』の有名な台詞である。『ハムレット』は、シエイクスピアの悲劇の戯曲であるが、この台詞の意味は、幾通りにも解釈できるといわれている。「生きるか、死ぬるか、それが問題なのだ。」「存在することの是非、それが問題として突きつけられている。」「やる、やらぬ、それが問題だ。」「ほか、いろいろである。」

エネルギーの未来や夢を想像させる「新エネルギー」という言葉は、英語では new energy であるが、日本国内で用いられるもので、これをキーワードとしてインターネット検索してもヒットしない。代わりに、「新・エネルギー技術」のような具体策を教えてください。日本での「新エネルギー」という用語は、経産省が所轄する国内の法律「新エネルギーの利用等の促進に関する特別措置法」で規定されたものであり、石油代替エネルギーを対象としているからである。海外では、renewable energy がこの意味として一般に用いられている。

最近、「再生可能エネルギー」がよく用いられているが、「自然エネルギー」と同義語であり、

太陽光、風力、水力、海流・潮汐、海洋温度差、地熱、バイオマスなど自然由来のエネルギー源を意味している。その英語表記は renewable energy である。「再生可能エネルギー」は、いまや世界の共通語となっている。これを省略して、「再生エネルギー」とすることは、原意から適当ではない。中国語では「可再生能源」と表現されるが、これに倣うと「可再生エネルギー」となる。呼び名はともかくとして、いま、まさに、「再生可能エネルギー」が先導されるべき時代が来ていると考える。

『ハムレット』の話に戻ると、『To be, or not to be: that is the question』は、第3幕の第1場で発せられている。それは、30文からなる長い台詞の冒頭にある。王である父が弟にあたる叔父に毒殺され王位を奪われ、実母までがその叔父の新生に寝返ったという不忠をハムレットは受け入れることができない。父の亡霊が現れ、報復を掻き立てる。ハムレットの恋人オフィリアは、彼の置かれた状況を理解できずに川に身を投げる。こうした悩み苦しむハムレットが発した長い独白を、いかに翻訳表現するかは、英文学者の悩みでもあった。そうした中、小田島雄志氏は、この台詞を次のように訳している。「このままでいいのか、いけないのか、それが問題だ。」

いま私たちは、エネルギーの選択、そして亡霊のようによつてくる技術革新の怒涛の中に生き、煩悶し模索している。心情的には、未来のエネルギーは、再生可能エネルギーで行うべきと思っ

ているが、なかなかそれを先導することに踏み切れない。それを纏うがために、いろいろの言い訳をしている。その悩みは、まさにハムレットと同様である。「このままでいいのか、いけないのか、それが問題だ。」

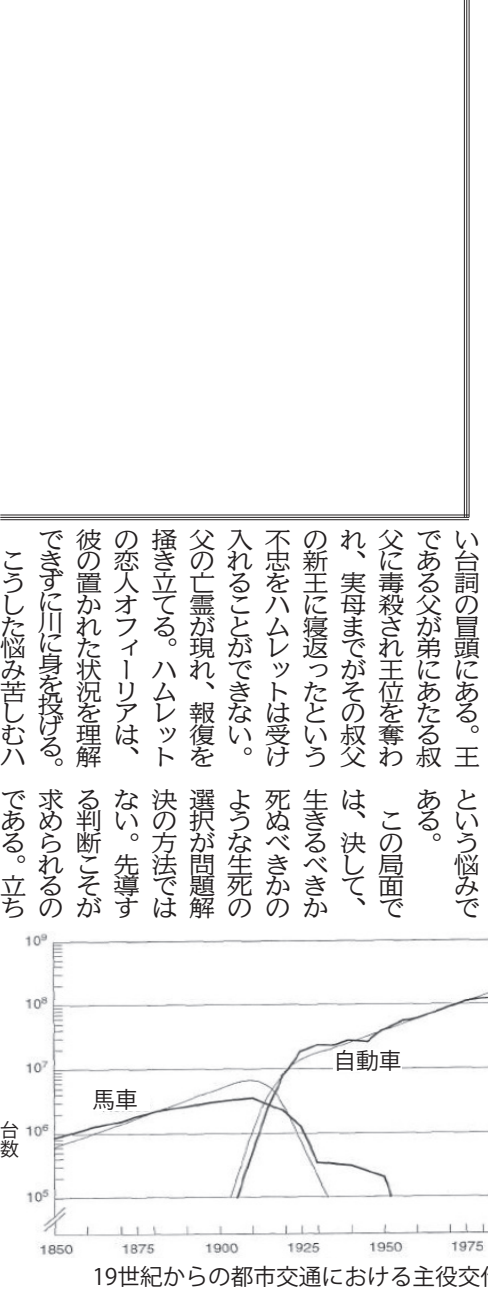
この交代劇を21世紀の時点から見ると、当然のように見える。

いま私たちは、従来型発電から再生可能エネルギーへの主役交代劇に立ち会っている。それは、過去・現在・未来へと続くエネルギー革命の道程でもある。16〜17世紀の作家、シエイクスピアが、未来のエネルギーの選択に迷ったたちになぞ

賭けしているのかもしれない。

図は、19世紀からの都市交通が、馬車から自動車に、そしてその台数が対数的に増大し、見事に主役交代した様子を示している。馬車から自動車の時代への転換には、ヘンリー・フォードの努力による大量生産方式が大きく貢献した。しかし、

この交代劇を21世紀の時点から見ると、当然のように見える。



19世紀からの都市交通における主役交代